

3-5

時間の有効活用と人と人とのふれあい

～笑顔が人を動かすとき～

人の関わり

機能と社会性の向上

特別養護老人ホーム 愛生苑

介護職員 栗原 奈央

東京都多摩市和田 1547

介護職員 宇井 忍

介護職員 古賀 春美

FAX: 042-376-3555

E-mail: aisei@crocus.ocn.ne.jp

FAX: 042-376-3530

URL: http://www2.ocn.ne.jp/~toukyou/

今回の発表の施設  
またはサービスの  
概要

施設が在苑者の生活の場であるという認識のもとで、提供される全てのケアサービスが在苑者のQOL向上に結びつくよう、その現実へ向けて介護技術や知識を習得することはもちろんの事、社会人としての人格形成に努めるべく、自己研磨に励む。

## &lt;取り組んだ課題&gt;

- 日常の業務に追われ、ゆっくりと在苑者に関わる時間が持てなかった。
- 在苑者への日々の楽しみ、癒しや刺激の提供ができるようになった。
- 時間に余裕がある時でも、その時間の使い方がわからなかった。
- 個別対応では笑顔を見てくれるのに、フロアでは雰囲気が暗く、笑顔や会話が少なかった。

## &lt;具体的な取り組み&gt;

- AM 体操の時間をつくる。(ラジオ体操、嚥下体操他)
- PM おやつ時間、おやつグループ、離床時間の検討、見直し。
- 活動内容の検討
  - ・レクリエーションの検討(実際に評価する)  
各種ゲーム、学習療法、音楽鑑賞、ビデオ鑑賞
  - ・レクリエーションに参加できない方たちへの個別対応の検討
- 時間の設定
- レクリエーションの担当を設ける。
- レクリエーションカードと評価カードの作成、記入
- OTからのアドバイスを受け、実行する。
- 職員のケア方法、目標・目的に対する意識の統一。

## &lt;活動の成果と評価&gt;

- 業務等の見直しにより、時間をつくることができた。また、数人の在苑者を職員1人が見守れる体制ができだため、他の職員が他の業務をスムーズに行えるようになった。
- 全体的に、在苑者に笑顔や会話が増え、フロアの雰囲気が明るくなった。
- 職員の意識の改革。

## 【全体の活動】

- ・普段在苑者同士での関わりが少なかったが、レクリエーションなど集団で活動することで、協力しあう姿が見られ、一体感のようなものが生まれた。

## 【個別対応】

- ・個別に行うことによって、1対1でゆっくり関わる時間ができた。
- ・発語や体を動かす機会が増えた。
- ・会話や、音楽鑑賞、ハンドマッサージ等を行い五感を刺激する事で、筋緊張等介護レベルの高い方たちの身体的な症状の緩和ができた。

## &lt;今後の課題&gt;

- 継続性を持たせるための、方法や業務等の検討。
- 個々のニーズに適った個別対応の検討。
- 他フロアとも交流し、苑内の社会性を広げることにより、生活サービスの質の向上。

## &lt;参考資料など&gt;